

図工の思い出展

展覧会を通じて「思い出」と「作品」を共有

◆きっかけ



日本人には、プリミティブな表現や、社会的メッセージを含んだ表現に対する理解が不足していると感じた。

左)研究者の小学4年次の作品、右)授産施設に通うAさんの絵

図工・美術教育への疑問

思い出・作品を集める&鑑賞する

検証できる?



展示のキャプション(写真の左:作品制作時→右:展覧会時)

◆ある程度時間が経過することで検証が可能となる

一般に、図工・美術は感性や創造活動の基礎力を身につけるものであるため、教育の成果は何年も経った後に分かるのでは、と考えた。展示のキャプションに作品を作った子ども時代の写真を使い、時間のギャップを感じさせるようにした。



◆キャラクターによるメディアづくり

「図工」の字と時計によりこのプロジェクト全体のナビゲーターであるキャラクターを制作し活用した。

◆作品が残っているということ → 親子のコミュニケーション

子どもの作った作品を捨てないで保管してあるということは、親がそれを大切に思っているからと考えられる。それを再び鑑賞することで世代間のコミュニケーションが起きた。

点数によって評価されない教科(分野)だから、「時間の経過」に注目 家庭に眠っている作品を掘り起こし鑑賞し直す



アンケート



サイト



展覧会

◆様々なメディアで作品を共有

最初テキストベースで思い出を集めていたが、画像、さらには実物を見た方が情報が格段に多くて検証する材料としてよいので、展覧会を開催することを目標に作品を集めた。



フリーペーパー

BBS



図工の思い出プロジェクト

図工の思い出・作品を媒体として、日本の図工・美術教育は個人にどのような影響を与えるのか検証する

愛知県立芸術大学 大学院 美術研究科 デザイン領域 宮川友子

「教育」について

学習指導要領、インタビュー

小中学校における図工・美術の作品から言えることは? 義務教育以外の現場では? など、「先生」に事情、展望などを聞く。日本と外国との比較

◆「先生」へインタビュー

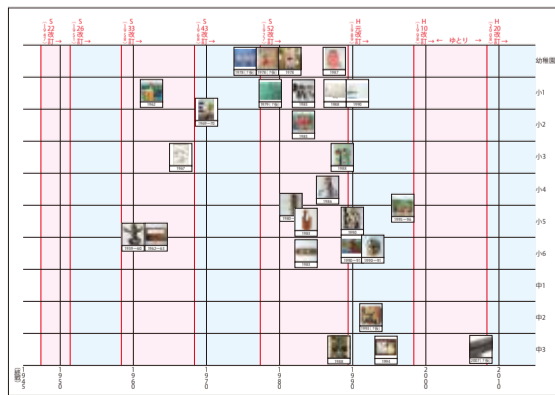
小学校、造形教室、大学...

現場の先生に現状と理想、問題などを具体的に聞くことで、問題点を客観的に明らかにする。



◆学習指導要領の改訂との比較 (材料・道具・テーマ、地域性など)

文部省の学習指導要領は社会・生活の変化に合わせて約10年ごとに改訂されている。時代と共に作品や思い出に変化はあらわれるのか、今年度収集する作品も併せ比較したい。



学習指導要領の改訂年表に、収集した作品を重ねた図

◆外国との比較

教科書を収集する、義務教育の有無や時間割、問題点や教育事情などを調査するなどしたい。

アートになろう! 新しい「思い出」



◆様々な場所で

背景を掛ける壁さえあればできるので、展覧会場の他、市民まつりやシルバークラブなどに出張した。その際、アートを楽しく鑑賞するための簡単なレクチャーをした。

◆インスタントフィルム

参加型鑑賞体験のミニワークショップ「アートになろう!」では、自分がアートになった姿を、データではなくインスタントフィルムで持ち帰る。

過去だけでなく、未来への思い出づくりの新しい形を提案。誰にでも気軽に参加でき、ムダな廃棄物を少なく。体を動かしてアート鑑賞。



ゲルニカ

◆いろいろなモチーフ
見たことがあるような名作のマネをする際、改めて鑑賞をしなければならぬ。また実際に体を動かすため、記憶に残りやすい。1人でできるものもあり、複数人で行うものもあり、コミュニケーションしながら体験することができる。



モナリザ



叫び



阿修羅像